

タイトル	遠くて近い国 タンザニア ～ふれる・しる・わかる～		
名前	山本 訓子		
学校名	御所市立名柄小学校		
担当教科	—		
実践教科	全校集会、総合的な学習の時間、学活	時間数	5時間×4クラス 3時間×1クラス
対象学年	1～6年生	対象人数	79人 (1年8人、2年12人、3年9人、4年13人、5年22人、6年15人)

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・タンザニアとの出会いを大切にするとともに、興味、関心を持ち文化的な多様性を尊重する価値観を育む。
- ・タンザニアと日本（自分）とのつながりを感じ、考える力を育む。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
事前の取組〈5・6年生〉 テーマ：タンザニアを知っている？ ねらい：子どもたちの実態・意識調査。	①白地図でタンザニアを探す。 ②「今一番欲しいもの」「将来の夢」「タンザニアやアフリカに対するイメージ」等のアンケートをとる。 ③メッセージを書く。	ワークシート
1限目〈全校集会〉 テーマ：タンザニアに出会う。 ねらい：タンザニアに興味を持たせる。	①名柄小学校からタンザニアへ（ドバイ経由）Google Earthを使ってひとつ飛び。タンザニアの位置を確認。 ②クイズと映像を通してタンザニアの様子を知る。 ③ワンポイントスワヒリ語レッスン。	パワーポイント Google Earth 振り返しシート
2限目〈1・2年生〉 テーマ：？からの出発。 ねらい：全校集会をしたあと出てきた感想、質問等からタンザニアにふれる。	①学校、授業、生活の様子で子どもたちの疑問に答える。 ②スワヒリ語の数字を知る。 ③いろいろなモノを触って、タンザニアに親しむ。 ④ティンガティンガの塗り絵を楽しむ。	パワーポイント 黄金のたから箱 ティンガティンガの塗り絵 振り返しシート
〈3・4年生〉 テーマ：タンザニアを知ろう。 ねらい：日常品を通して、タンザニアの生活の様子を知る。	①タンザニアで使われているモノを触ったり、におったりして何をするモノなのかを考える。 ②実際にどのように使われているのかを知り、日本との違いに気づき、タンザニアの事情を知る。	黄金のたから箱 (タンザニアで収集してきたもの) ワークシート 振り返しシート
〈5・6年生〉 テーマ：タンザニアを知ろう。 ねらい：日本との違いやつながりを知る。	①フォトランゲージ ②写真を通してたくさんのタンザニアの中の日本を知る。 ③絵本「ピカピカ」読み聞かせ。	タンザニアで撮った写真 絵本「ピカピカ」 振り返しシート

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
3限目 (3・4年生)	5・6年2限目と同じ	
(5・6年生) テーマ：今一番欲しいモノ ねらい：自分たちとの違いからタンザニアの事情を想像する。	①袋に入った「欲しいモノ」を触って何か当てる。 ②順位を予想する。 ③なぜそれが欲しいと思っているのかを考える。 ④グループで話し合い、全体でシェアリング。	黄金のたから箱 (アンケート結果による今一番欲しいモノ) ワークシート パワーポイント 振り返りシート
4限目 (5・6年生) テーマ：タンザニアからのメッセージ ねらい：教育事情を知り、子どもたちのたくましさにふれる。	①タンザニアの教育事情を知る。 ②タンザニアの中学生からのメッセージ「教育は…を変える。」自分なら「…」に何を入れるか考える。 ③グループで話し合い、全体でシェアリング。	パワーポイント ワークシート スライドショー (出会った子どもたちの写真) 振り返りシート

実践授業の詳細

全校児童数79名という小規模校の特徴を生かすために、全校的取組とした。1年生～6年生までの実態に即した授業内容を考え実践した。

<事前の取組>

タンザニア研修出発前に、子どもたちがタンザニアやアフリカについてどんなことを知っているのか？どんなイメージを持っているのか？を意識調査した。また、現地で中学生を行うアンケートと同じ内容のものも行った。

<1限目：全校集会>

タンザニアの場所も知らない子どもたちがその距離感をつかめるよう、Google Earthを使って名柄小学校からドバイ経由でタンザニアまで移動した。パワーポイントやビデオで視覚的にタンザニア紹介を行った。スワヒリ語の挨拶や「私の名前は…です。」という会話練習も行った。



子どもたちの反応・感想（抜粋）

「タンザニアってどんなところだろう？」と興味津々の様子で期待感があふれていた。タンザニアに派遣中の青年海外協力隊員のブログから、手作り日本展の様子を紹介した。名柄小学校紹介写真をタンザニアの人たちが見ているのに驚き、自分たちのことを知ってもらっているうれしさを感じていた。

- ・スワヒリ語は、はじめて知ったからおぼえて家の人に教えてあげたいです。(2年生)
- ・クラス的人数が多くていいなあと思った。(4年生)
- ・もし私がタンザニアに行ったら、日本の文化をもっともっとタンザニアの人に伝えたいです。(5年生)
- ・映像で見たタンザニアは、ぼくの想像とちがって全然シマウマやゾウはいませんでした。車もいっぱい通っていたし、人もいっぱいいました。「やっぱり実際に行かないと本当にそんな国かわからないんだなあ。」と思いました。(5年生)

- ・私は日本からタンザニアまで、すごく遠いことは知っていたけれど、画像を見せてもらうと、自分が思っていた以上に遠いなと思いました。それなのにタンザニアの車は日本製が95%もあると聞いて、タンザニアにもトヨタなどのお店があるのかなと思いました。(6年生)

全校集会後の感想で、たくさんの質問が子どもたちから出てきた。その中から何点か取り上げ、回答する形で授業を進めた。

<2限目：1・2年生>

★??の回答キット ～?からタンザニアにふれよう!～



- ①「名柄小学校はきれい」って言ってたけど、タンザニアの学校はどんなのですか？
・タンザニアの学校の写真を見せ、同じところ、違うところを見つける。

- ②算数の授業だけでなく、図工や体育の授業はあるのですか？

- ・小学校の教科書を紹介。
- ・ティンガティンガ、マコンデ彫刻の紹介。
- ・体育の授業の様子を動画で紹介。
- ・スワヒリ語で1～10まで言ってみよう。
- ・“Twahesabu”の歌（たし算の歌）を聞く。



- ③どんな掃除道具がありますか？



掃除道具を持って登校



水くみ場近くで出会った子どもたち



ほうき



カタ

- ・掃除道具を紹介する中で、タンザニアの子どもたちの水くみについてもふれた。

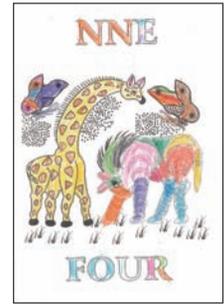
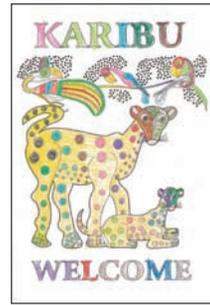
- ④タンザニアの小学生はおしゃれをするのですか？



- ・カンガを着ている子どもたちの写真を見せ、実際にカンガを身につけた。

子どもたちの反応・感想 (抜粋)

実際に見て、触ったり、体験したりしたことでタンザニアに対してとても興味を示した。タンザニアのグッズが出てくるたびに、目をまん丸にして食い入るように見ていた表情が印象的だった。スワヒリ語で1～10の数字を練習した後、たし算のCDを聞くと「ホントに全部の数字出てきた！」と喜んでた。



- わたしもいつかほんとうにタンザニアにいったらどんなおりょうりや、どんなじゅぎょうをうけているのかみてみたいです。(1年生)
- あのわかをあたまにのせて、そのうえにバケツをおくのってむずかしいのかな？タンザニアのすうじのよみかたは、にほんとぜんぜんちがうね。(1年生)
- ぼくはスワヒリ語をもっとしりたかったです。ぼくらは、ほうきやぞうきんが学校にあるけど、タンザニアは家からもってきていました。(2年生)

<2限目：3・4年生>

★黄金のたから箱 ～何をするモノかな？～



- ・カリンバ
- ・ウガリ棒
- ・オイルランプ
- ・せん抜き
- ・カタ
- ・カンガ

たから箱に入っていたタンザニアの日常生活で使われているモノを各グループに1つ配り、各々何をするモノかを考える。

子どもたちの反応・感想 (抜粋)

オイルランプなどは「ミカンの絵が描いてあるから、ジュースを飲むコップや！ここがストローになってる。」「金属になってるから、温めても大丈夫。お茶を沸かすんとかがう？」と活発に意見を出し合っていた。職員研修でモノランゲージをしたが、多様な意見は出なかった。改めて、子どもたちの発想の豊かさに驚いた。



- タンザニアにいろいろ日本とはちがう道具があったのでびっくりしました。一番びっくりしたのは、4班のカタです。頭に物を乗せて手をはなして歩いてたことです。バランスがいいなあと思いました。(3年生)
- カリンバを最初、わたしは「とりのすばこ」だと思いました。でも、それは楽器でした。長いぼうはひくい音、みじかいぼうは高い音です。おもしろいなと思いました。(3年生)

★ホントに遠い国？タンザニア

小学校での体育の授業風景、日本の自転車（後ろに高校のステッカーが貼られている）の現地で撮った写真を使って、フォトランゲージを行った。気づいたこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことなどを半透明付箋に書き、写真に貼っていった。

「山本先生が見つけたタンザニアの中の日本」と題して、日本とのつながりがある物・人の写真を紹介した。5 S活動など協力隊の活動の紹介も行った。

子どもたちの反応・感想（抜粋）

発見をしていくのが楽しく、次々付箋に書き入れていた。自転車が積まれていたタンクに気づき、タンザニアの子どもたちの水くみの話もできた。



- 2まい目の写真では、日本の自転車に乗っていました。日本の中古の物が行っていたり、日本の物がタンザニアで活やくしているのがわかりました。タンザニアの小学校の体育でも、日本と同じことをするんだなあと思いました。（3年生）
- さいしょ、タンザニアは何?とっていました。でも、日本とつながっていることがわかりました。これからはタンザニアだけでなく、いろいろな国を調べてみたいです。（3年生）
- 子どもが水くみに行っていた。水をくんでくるのは、子どもの仕事だということがびっくりしました。（4年生）
- 1まい目は子どもが手を組んでいる写真でした。わたしはダンスをしているのかなと思っていたけれど、他の班はオニごっことかサッカーとか言っていたので、いろんな考えがあるんだなと思った。でも、本当は体育のじゅぎょうだった。次に自転車の写真だった。班の人が自転車のところに漢字が書いてあることに気づいたので、びっくりした。（4年生）

<3限目：5・6年生>

★ホントに遠い国？タンザニア ※授業の流れは3・4年生と同じ

子どもたちの反応・感想（抜粋）

発想力豊かな5年生が6年生を引っ張るかたちで授業が進んだ。自転車の写真では、いち早く日本語のステッカーを見つけ日本とのつながりを考えているグループもあった。

- タンザニアの体育の授業は、負けてもみんな怒っていませんでした。（5年生）
- 日本はタンザニアに技術も教えているなんて知りませんでした。私は遠い国同士でも、自分たちのいい所を教えてつながっているとすることがわかりました。（5年生）
- 日本の製品が海外のいろんなところで活やくして、こうやって海外とつながることもできるんだと感じました。タンザニアが日本のよいところを自分の国でもやる5 Sを聞いて、日本も同じようにタンザニアの良いところをマネしてみるのもいいなと思った。（6年生）

★たから箱「今一番欲しいモノ」



この中には、アンケート調査したタンザニアの中学生が今一番欲しいモノが入っています。みんななら何を入れる？

黄金のたから箱の中に、巾着に入ったタンザニアの中学生が欲しいと思っているモノ（物体でないモノはそれを象徴する物体）を触って何かを想像する。袋を開け、そのモノが何かわかった後、ランキングを行う。自分たちとの違いに気づき、どうしてタンザニアの中学生は欲しいと考えているのかを考える。



子どもたちの反応・感想（抜粋）

たから箱の中に入っていた、巾着の中に「何が入っているのかな？」というワクワク感が子どもたちにあふれていた。子どもたちが中に入れたいと声にしていたのが予想通り「お金」「服」「ゲーム」が多く、中には「自由な時間」「努力する気持ち」という子どももいた。



- めんどくさい教育（勉強）をなぜ、多くの人たちが選んだのか、頭の中が？でいっぱいです。自分だったら、絶対サッカーボールを選んでた。（6年生）
- 日本はサッカーボールもカメラも「ほしい」と思えば簡単に手に入るから、どうしてボールやカメラがほしいのか気になった。タンザニアの子どもたちの生活をもっと知りたくなった。（6年生）

< 4限目：5・6年生 >

★タンザニアからのメッセージ

前時で「教育」が一番欲しいモノと答えたタンザニアの中学生たちに迫るため、パワーポイントを使って、タンザニアの教育事情を話した。タンザニアの中学生が日本の子どもたちへのメッセージとして「教育は人生を変えることができます。」という言葉をもたらした。また教員養成学校では「教育は国や社会を変えることができる。」という意見を聞いた。“Elimu ni kubadili maisha.” “Elimu ni kubadili Nchi.” の2つのメッセージと日本語に訳した「教育は…を変える。」を子どもたちに示し「現在、日本で教育を受けている自分たちは『…』に何という言葉を入れるか。」ということ考えた。

子どもたちの反応・感想（抜粋）

チャイの時間（おかしタイム）を「うらやましい」と言っていた子どもたちだったが、実際には貧しいために半数の子ほどしか食べることが出来ず、空腹のまま1日学習をしている子がたくさんいること、小学校から中学校に進学するのは約20%、さらに高校へは、その

約20%ということで全体の約4%の子どもしか高校へ行けない現実に衝撃をうけていた。最後に私が出会ったタンザニアの子どもたちの写真をスライドショーで流すとその笑顔の明るさやたくましさを感じ取っていた。

- タンザニアのことを勉強してきた中で、すごいな！と思ったことは、何があっても笑顔でいることです。私たちは今、幸せすぎるからちょっとしたことで悲しい顔を してしまうんだと思いました。教育が欲しいと言ったのは、自分のためだけでなく国の ためなのかとびっくりしました。(5年生)
- 小学校から高校まで行けるのはたった4%しかないのが一番びっくりしました。中学校に全員いかせてほしいなと思いました。(5年生)
- タンザニアは日本と比べたら、すごく貧しい国だと分かったけれど、「教育は国を変える。」「人生を変える。」という言葉から、タンザニアの国民の一人ひとりが日本の国民より前向きに生きているんだらうなあとと思いました。私も見習わないといけないなと思いました。(6年生)

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

実践授業では「これも伝えたい、あれも知って欲しい。」と思うことは多々あったが、限られた時間の中で行ったため、まだまだ不十分な点が多い。アフリカの遠い国タンザニア…事前アンケートでも「知らない」「関係がない」と思っていた子どもが多かった。しかし今回の数時間の取り組みで、まず第一の目標としていた「子どもたちがタンザニアという国とプラスの出会いをし興味・関心を持つ」ことができた。また後日にタンザニア・ナチングウェアで活動する青年海外協力隊が送ってくれた手作り日本展の動画をミニ集会で見せた。自分たちの書いたメッセージが確かにタンザニアの子どもたちに届いている様子を見て、今までは日本とタンザニアという大きなつながりだけであったものが、自分とタンザニアの子どもという個々のつながりを感じてくれた。

今回の実践では、タンザニアに関わる“ヒト・コト・モノ”を教材化し、子どもたちに「ふれる・しる」ことを中心とする取組であった。しかし、子どもたちにとっては主体的な学習とはならず、受け身的なものとなってしまったことは否めない。今後は、子どもたち自らが活動し自分たちに出来ることは何かを考えていく取組を考えていきたい。タンザニアだけでなく、これをきっかけに広く海外に目を向け「まずは、知りたい！」そして関心をもったからこそわかることがたくさんあることを子どもたちと一緒に体験していきたい。

参考資料

〈全校集会〉 パワーポイントより

Q1：タンザニアの空港の駐車場に行くとき山本先生はビックリしました！さて、何におどろいたのでしょうか？

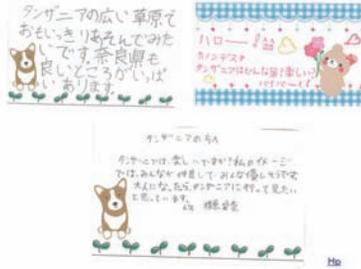
- 1.キリンやシマウマがたくさんいた。
- 2.日本の車がたくさん停まっていた。
- 3.駐車場が大草原だった。



正解は・・・



2番：日本の車がたくさん停まっていた。



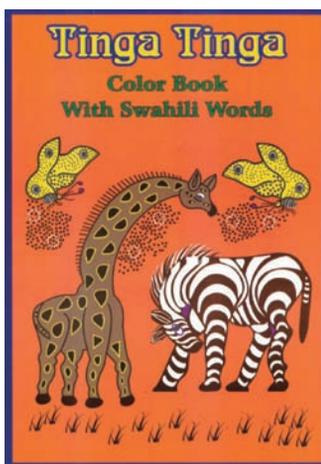

ワンポイント スワヒリ語

あいさつ
 フジャンボ シジャンボ
 シカーモ マラハバ

わたしのなまえは〇〇です。
 シナ ラング ニ 〇〇。



〈1・2年生〉



ティンガティンガ塗り絵本

スワヒリ語で数字をいってみよう！

1	モジャ	2	ンビリ
3	タトゥ	4	ンネ
5	タノ	6	シタ
7	サバ	8	ナネ
9	ティサ	10	クミ

〈3・4年生〉

★黄金のたから箱 ～何をするモノかな？～



黄金のたから箱に入れたモノ



★ホントに遠い国？タンザニア



体育の授業風景



日本の自転車



フォトランゲージ後



※山本先生が見つけたタンザニアの中の日本



〈5・6年生〉

★たから箱「今一番欲しいモノ」

E:教育 37人
B:本 30人
A:ウガリ・食べ物 3人
C:サッカーボール 2人
D:ノート 2人
F:カメラ 2人

どうしてタンザニアの子どもたちはこれが一番欲しいと思ったのだろう？

たから箱「今一番欲しいモノ」

□ 数量 (37人)
 □ 本 (30人)
 □ ウガリ・食べ物 (3人)
 □ ノート (2人)
 □ サッカーボール (2人)
 □ カメラ (2人)

※どちらに最も多く選んで、「なるほど」と思った理由を書いてみよう。

★タンザニアからのメッセージ

Elimu ni kubadili maisha.
 人生
Elimu ni kubadili Nchi.
 国
教育は [] を変える。

↑
 あなたなら、何という言葉を入れませんか？

タンザニアからのメッセージ

● Elimu ni kubadili maisha. ● Elimu ni kubadili Nchi.

教育は [] を変える。

※どちらの理由を聞いて、「なるほど」と思った理由を書いてみよう。

《参考文献》

- ・ UKUTI UKUTI (タンザニアで収集したCD付き歌本)
- ・ 絵本「ピカピカ」 たばたせいいち 偕成社